

日本歯科保存学会
認定医・専門医研修カリキュラム

神奈川歯科大学附属病院 保存・修復診療科

1. 研修の目標

1) 研修終了後の成果 (Outcome)

歯科保存学に関する最新の専門的知識と臨床技能を修得することはもちろんのこと、保存歯科治療の進歩発展と向上を図り、国民の信頼を得ながら国民の健康維持増進および保健福祉の推進向上に寄与する認定医・専門医となる。

2) 到達目標

(1) 専門知識

A. 保存修復分野

I. 歯科保存治療専門医・認定医としての保存修復学に対する認識と疾患対応能力

1. 保存修復学に関する高い見識を有し、歯科医学全般の中で保存修復学が置かれた重要性、治療の意義、目的を説明できる。
2. 保存修復治療に必要な解剖学的、組織学的、病理学的、生理学的、生化学的、細菌学的、薬理学的、理工学的知識を熟知し、最新情報に精通している。
3. 保存修復治療に使用される各種機器、器材に精通し、治療の術式および機器、器材の使用法を熟知している。

II. 硬組織疾患

1. 齲蝕の病因、成立機序の理解と対応能力 口腔内常在菌および齲蝕原因菌について、それらの特性、滅菌法および消毒法を説明できる
2. 齲蝕に伴う歯髄反応の理解とその対応能力
 - 1) 齲蝕の進行に伴う歯髄反応について、臨床的および病理学的に説明できる。
 - 2) 適切な歯髄の保存治療を実践できる。
3. 齲蝕以外の硬組織疾患に対する歯髄反応の理解と対応能力
 - 1) 齲蝕以外の硬組織疾患に対する歯髄組織の反応について、臨床的および病理学的に説明できる。
4. 齲蝕の治療の理解と対応能力
 - 1) 齲蝕の治療法の概要と傷害を受けた歯髄組織に対する治療の目的、処置および歯髄保護の重要性を説明できる。
 - 2) 正確な診断情報を得る方法を説明できる。
 - 3) 修復治療に際しては修復材料の材料学的特性を説明できる。
 - 4) 治療に必要な特殊器具の正しい使用法を説明できる。
 - 5) 修復治療においては、患者の審美的治療の要求にこたえられる色彩学的知識を説明できる。
5. 乳歯・幼若永久歯に対する齲蝕の治療の理解と対応
 - 1) 乳歯・幼若永久歯と一般的な永久歯齲蝕との異同、およびその特徴を説明できる。

6. 硬組織疾患の検査と治療方針の決定

1) 齲蝕リスク判定法

① 各種齲蝕リスクの判定法について説明できる。

III. 硬組織疾患の予防・保健管理

1. フッ化物の応用

1) 各種フッ化物の歯面塗布あるいは投与に関する効能，作用機序，至適濃度，副作用を説明できる

2. バイオフィルム除去を目的とした齲蝕予防法

1) 齲蝕原因菌の除去を目的とした齲蝕予防法について説明できる。

2) 齲蝕原因菌の除去を目的とした齲蝕予防法の効果と術式について説明できる。

IV. MI (Minimal Intervention) コンセプトによる修復治療

1. MI に基づく齲蝕治療の概念の理解

1) FDI (2002 年) による MI に基づく齲蝕治療の提言を説明できる。

2. 歯質接着システムと修復法の選択と治療

1) 歯質接着性材料の使用と MI の関連について説明できる。

2) 接着修復材料に関する歯質接着機構と被着体との接着強さについて説明できる。

3) 各種接着システムの特徴と術式手順の違いを説明できる。

V. 高齢者の根面齲蝕の予防と治療

1. 歯根象牙質およびセメント質の特性

1) 歯根象牙質およびセメント質の特性を説明できる。

2) 根面齲蝕リスクについて説明できる。

2. 根面齲蝕のリスク因子

1) 根面齲蝕のリスク因子を列挙できる。

VI. 齲蝕治療後のメンテナンス

1. メンテナンスの必要性の理解と説明

1) 各種治療後のメンテナンスの必要性を説明できる。

VII. 歯の変色の診断と治療

1. 歯の変色の原因と発現機序を説明できる。

2. 治療法の選択

1) 歯の変色の治療法を患者や家族に説明できる。

2) 有髄歯の漂白法の適応症と禁忌症を説明できる。

3) 無髄歯の漂白法の適応症と禁忌症を説明できる。

4) 漂白についての術中・術後の注意事項，後戻り等について患者に説明できる。

VIII. その他特殊な硬組織疾患への対応

1. 歯の着色や形態異常の原因と発現機序を説明できる。

2. 適切な治療法を選択できる。

3. 予後を予測できる。

4. 治療後の注意事項を患者に説明できる。

IX. Tooth Wear (摩耗, 咬耗, 酸蝕, アブフラクション等) の診断と治療

1. 病態の理解と説明

- 1) Tooth Wear の原因・病態・転帰を説明できる。
- 2) これらの歯質の性状変化が接着修復材料の接着強さに与える影響を説明できる。
- 3) 個々の症例に適した窩洞形態について説明できる。

X. 歯科用レーザーを用いた齲蝕治療

1. 歯科用レーザーの特性と理解

- 1) レーザー光の特性を説明できる。

2. レーザーの選択と処置

- 1) 波長や照射出力の違いが被照射部に与える影響について説明できる。
- 2) 歯科用レーザー付属機器の正しい使用方法を説明できる。

B. 歯内治療分野

I. 歯科保存治療専門医・認定医としての歯内治療学に対する認識と疾患対応能力

1. 歯内治療学に関する高い見識を有し、歯科医学全般の中で歯内治療学が置かれた重要性、治療の意義、目的を説明できる。

II. 歯、歯髄、根尖歯周組織の構造と機能および基本術式の理解と対応能力

1. 歯、象牙質・歯髄複合体、根尖歯周組織の構造と機能について、臨床的および病理学的に説明できる。
2. 歯の長期保存のために歯髄保存の重要性を説明できる。
3. 歯内治療における無菌的処置法を説明できる。
4. 歯内治療における除痛法（麻酔法）を説明できる。

III. 象牙質知覚過敏症の理解と対応能力

1. 歯の硬組織疾患としての象牙質知覚過敏症の原因と疼痛発現のメカニズムを説明できる。

IV. 歯髄疾患の理解と対応能力

1. 歯髄疾患の原因と発症メカニズムを説明できる。
2. 歯髄疾患の病理学および臨床的分類を説明できる。
3. 歯髄疾患の臨床所見および病理組織学的所見、ならびに臨床症状と病態との関係をそれぞれ説明できる。
4. 歯髄疾患の診査・検査法を説明できる。
5. 歯髄疾患に対する各種の治療法に精通し、病態の相違に対し適切な治療を確実に実施できる。

1) 歯髄保存療法の理解と対応能力

- ① 歯髄鎮痛消炎療法ならびに覆髄法（間接覆髄法ならびに直接覆髄法）の目的、手技を説明できる。
- ② IPC 法（暫間的間接覆髄法）における歯髄組織の反応や経過を説明できる。
- ③ 歯髄保存療法の治癒機転と予後を説明できる。
- ④ 歯髄保存療法における抗菌薬を説明できる。

2) 歯髄除去療法の理解と対応能力

- ① 歯髄除去療法（歯髄切断法）の目的、手技を説明できる。

- ① 生活歯髓切断法（生活断髓法）の目的、手技を説明できる。
- ② 生活断髓後の歯髓組織の反応や経過について説明できる。
- ③ 麻酔抜髓法の目的、手技を説明できる。
- ④ 失活歯髓切断法（失活断髓法）ならびに間接抜髓法（失活抜髓法）を説明できる。

V. 根尖性歯周組織疾患の理解と対応能力

1. 根尖性歯周組織疾患の原因と根尖病変成立のメカニズムを免疫学的、細菌学的、病理学的に説明できる。
2. 根尖性歯周組織疾患の病理学および臨床的分類を説明できる。
3. 根尖性歯周組織疾患の臨床所見および病理組織学的所見、ならびに臨床症状と病態との関係をそれぞれ説明できる。
4. 根尖性歯周組織疾患の診査・検査法を説明できる。
5. その他の各種治療法を説明できる。
6. 急性炎症が強い場合の緊急処置を説明できる。

VI. 根管処置の理解と対応能力

1. 一連の根管処置（髓室開拓、根管長測定法と作業長の決定、根管拡大・形成、根管の化学的清掃・根管洗浄、根管の消毒（根管貼薬）、仮封）を説明できる。
2. 抜髓根管と感染根管における根管拡大・形成の相違点について説明できる。
3. ニッケルチタン（Ni-Ti）製ロータリーファイルを用いた根管形成を説明できる。
4. 根管内容物の検査を説明できる。
5. 根管治療の補助療法を説明できる。
6. 再根管治療の利点と欠点を説明できる。

VII. 根管充填の理解と対応能力

1. 根管充填の目的・意義と時期を説明できる。
2. 根管充填材の所用性質と種類を説明できる。
3. 根管充填の術式を説明できる。
4. 根管充填後の治癒経過、ならびに治癒に影響を及ぼす因子を説明できる。

VIII. 特殊な歯内疾患への対応能力

1. 根未完成歯の治療の理解と対応能力
 - 1) アペキソゲネーシスを説明できる。
 - 2) アペキシフィケーションを説明できる。
2. 歯根の病的吸収の理解と対応能力
 - 1) 内部吸収の原因と症状を説明できる。
 - 2) 外部吸収の原因と症状を説明できる。
3. 外傷歯の診断と処置の理解と対応能力
 - 1) 外傷歯の分類を説明できる。
4. 外科的歯内治療の理解と対応能力
 - 1) 外科的歯内治療の適応症と種類を説明できる。
 - 2) 外科的歯内治療の術式を説明できる。
 - 3) 外科的歯内治療後の治癒機転と予後を説明できる。

3) 非付着性歯垢の形成原因の理解と対応能力を説明できる。

5. 手術用顕微鏡（マイクロスコープ）を応用した歯内治療の理解と対応能力

- 1) 手術用顕微鏡（マイクロスコープ）の構造と機能を説明できる。
- 2) 歯内治療における手術用顕微鏡（マイクロスコープ）の適応例を説明できる。

6. 歯内-歯周疾患の理解と対応能力

- 1) 歯内-歯周疾患の分類を説明できる。

7. 高齢者の歯内治療の理解と対応能力

- 1) 高齢者における歯，象牙質・歯髄複合体，根尖歯周組織の特徴を説明できる。
- 2) 高齢者の歯内治療の留意点を説明できる。

8. 根管処置後の歯冠修復の理解と対応能力

- 1) 根管処置済歯の歯冠側の確実な封鎖と機能回復を説明できる。
- 2) 根管処置済歯の破折防止に留意した支台築造と歯冠破折を説明できる。

9. 歯内治療における安全対策の理解と対応能力

- 1) 歯内治療時の偶発事故について，その種類と原因を説明できる。
- 2) 各種の偶発事故に応じた予防法を説明できる。
- 3) 有病者や妊婦の治療時の全身管理を説明できる。

10. 歯内治療における歯科用コーンビーム CT（CBCT）画像診断の理解と対応能力

- 1) 歯科用コーンビーム CT（CBCT）の構造と機能を説明できる。
- 2) 歯内治療における歯科用コーンビーム CT（CBCT）の適応例を説明できる。

11. 再生歯内療法（Regenerative Endodontics）の理解と対応能力

- 1) 再生医療の安全性と関連法律を説明できる。
- 2) 歯髄血管再生療法（Pulp Revascularization）を説明できる。
- 3) 歯髄幹細胞を用いた歯髄再生療法を説明できる。

C. 歯周治療分野

I. 歯科保存歯科保存治療専門医・認定医としての歯周病学に対する認識

1. 歯周病学に関する高い見識を有し，歯科医学全般の中で歯周病学が置かれた重要性，治療の意義，目的を説明できる。

II. 歯周基本治療

1. プラークコントロール

- 1) 患者のモチベーションについて説明できる。
- 2) 患者に適したセルフケアを説明できる。
- 3) 患者に適したプロフェッショナルケアを説明できる。

2. スケーリング・ルートプレーニング

- 1) スケーリング・ルートプレーニングの意義と目的を説明できる。
- 2) スケーリング・ルートプレーニングに必要な器具の正しい使用法を説明できる。
- 3) シャープニング法を説明できる。
- 4) 超音波スケーラー，エアースケーラーの正しい使用法を説明できる。

3. プラークリテンションファクター

- 1) プラークリテンションファクターの除去の意義と目的を説明できる。

2) プラークリテンションファクターの除去の方法を説明できる。

4. 咬合調整

1) 咬合調整法の意義と目的を説明できる。

2) 咬合調整法に必要な器具の正しい使用法を説明できる。

5. 暫間固定

1) 暫間固定法の意義と目的を説明できる。

2) 暫間固定法に必要な器具の正しい使用法を説明できる。

6. 抗菌療法

1) 歯周病の抗菌療法（経口投与，局所投与）の意義と目的を説明できる。

2) 歯周病の抗菌療法が説明できる。

Ⅲ. 歯周外科治療

1. 歯周外科治療の種類，適応，術式を説明できる。

Ⅳ. サポートペリオドンタルセラピー（SPT）とメンテナンス

1. 歯周病の一連の治療後の再評価において，「病状安定」と「治癒」が判断できる。

(2) 専門技能

A. 保存修復分野

Ⅰ. 歯科保存治療専門医・認定医としての保存修復学に対する認識と疾患対応能力

1. 保存修復治療に必要な解剖学的，組織学的，病理学的，生理学的，生化学的，細菌学的，薬理学的，理工学的知識を熟知し，最新情報に精通している。

2. 保存修復治療に使用される各種機器，器材に精通し，治療の術式および機器，器材の使用法を熟知している。

3. 歯科医からの求めに応じ，保存修復学に関する知識や情報の提供ができる。

4. 紹介された患者に対して適切に対応し，確実に治療できる。

Ⅱ. 硬組織疾患

1. 齲蝕に伴う歯髄反応の理解とその対応能力

1) 適切な歯髄の保存治療を実践できる。

2. 齲蝕以外の硬組織疾患に対する歯髄反応の理解と対応能力

1) 症例に応じた適切な歯髄の保存治療を実践できる。

3. 齲蝕の治療の理解と対応能力

1) 症例に応じた適切な修復材料の選択ができる。

2) 齲窩形成前のエナメル質初期齲蝕に対しては，患者管理による再石灰化療法などを図ることができる。

3) 治療に必要な特殊器具で精緻な処置が実践できる。

4) 個々の咬合を含めた機能的回復を図ることができる。

4. 乳歯・幼若永久歯に対する齲蝕の治療の理解とその対応

- 1) 乳歯・幼若永久歯の齲蝕治療ができる。
- 2) 必要な場合には専門医に紹介できる。

5. 硬組織疾患の検査と治療方針の決定

1) 齲蝕リスク判定法

- ① 齲蝕リスク判定の正確なサンプリングができる。
- ② 齲蝕リスク判定の結果を正しく評価できる。
- ③ 齲蝕リスク判定を個々の治療方針に適用できる。

2) 齲蝕の進行の検査

- ① 各種検査器具を正しく使用できる。
- ② 齲蝕の進行度を判定できる。
- ③ 治療方針を決定できる。

Ⅲ. 硬組織疾患の予・保健管理

1. 予防・保健プログラムの策定

- 1) 齲蝕リスクを判定できる。
- 2) 予防・保健プログラムを策定できる。

2. リスク別の患者管理

齲蝕のリスク別に患者を管理できる。

- 1) 予防法を選択できる。
- 2) リコール間隔を設定できる。
- 3) PMTC(professional mechanical tooth cleaning)あるいは単に PTC)を実施できる。
- 4) セルフケアプログラムを設定できる。

3. フッ化物の応用

- 1) 個々の患者ごとのオーダーメイド治療ができる。

4. バイオフィルム除去を目的とした齲蝕予防法

- 1) 齲蝕原因菌の除去を目的とした齲蝕予防法を実施できる。

Ⅳ. MI (Minimal Intervention) コンセプトによる修復治療

1. MIに基づく齲蝕治療の概念の理解

- 1) MIに基づく齲蝕治療を実施するための治療法を列挙できる。

2. 歯質接着システムと修復法の選択と治療

- 1) 各症例に対応した適切な接着修復処置を実践できる。

3. 齲蝕治療の実践

- 1) 罹患歯質あるいは疾患により影響を受けた歯質と健全歯質を分別することができる。
- 2) 保存できない罹患歯質の選択的除去が実践できる。

Ⅴ. 高齢者の根面齲蝕の予防と治療

1. 根面齲蝕のリスク因子

- 1) 根面齲蝕のリスク因子を列挙できる。
- 2) 根面齲蝕の制御法を個々の患者ごとに実施できる。

2. 根面齲蝕の修復治療

- 1) 根面齲蝕の修復治療に最適な修復法と修復材を選択できる。
- 2) 根面齲蝕の修復治療を効果的に実施できる。
- 3) 歯肉縁下あるいは隣接面の修復処置の困難性を認識できる。
- 4) 適切な器材を使用して精緻な修復治療を行うことができる。

VI. 齲蝕治療後のメンテナンス

1. メンテナンスの必要性の理解と説明

- 1) メンテナンスの必要性を患者に説明し、協力を得ることができる。

2. メンテナンスの評価

- 1) 齲蝕リスク検査の実施前と後で得られた効果ならびにメンテナンスを記録できる。

3. 診断および治療法へのフィードバック

- 1) メンテナンスの評価結果を活用できる。
- 2) メンテナンスのあり方を検証できる。

VII. 歯の変色の診断と治療

1. 治療法の選択

- 1) 歯の変色の治療法を選択できる。
- 2) 有髄歯の漂白法を適切に実施できる。
- 3) 無髄歯の漂白法を適切に実施できる。

VIII. その他特殊な硬組織疾患への対応

1. 適切な治療法を選択できる。
2. 予後を予測できる。

IX. Tooth Wear（摩耗，咬耗，酸蝕，アブフラクション等）の診断と治療

1. 治療法の選択

- 1) 患者のQOL維持に与える影響を勘案できる。
- 2) 患者の健康状態と症状に応じた適切な治療法を選択・実施できる。

X. 歯科用レーザーを用いた齲蝕治療

1. 歯科用レーザーの特性と理解

- 1) レーザー光の危険性や目の傷害について十分な配慮ができる。

2. レーザーの選択と処置

- 1) 用途に応じた波長を有する歯科用レーザー機器を適切に選択できる。
- 2) 齲蝕治療および予防的処置に歯科用レーザー機器を用いることができる。
- 3) 安全かつ適切な処置が実践できる。

B. 歯内治療分野

I. 歯科保存治療専門医・認定医としての歯内治療学に対する認識と疾患対応能力

1. 歯内治療に必要な解剖学的，組織学的，生理学的，病理学的，細菌学的，薬理学的，理工学的知識を有し，最新情報に精通している。
2. 歯内治療に使用される各種機器，器材に精通し，治療の術式および機器，器材

の使用法を熟知している。

3. 歯科医からの求めに応じ、歯内治療学に関する知識や情報の提供できる。
4. 紹介された患者に対して適切に対処し、確実に治療できる。

II. 歯、歯髄、根尖歯周組織の構造と機能および基本術式の理解と対応能力

1. 歯、象牙質・歯髄複合体、根尖歯周組織に、適切な歯内治療を実践できる。
2. 各種診査・検査機器・器具を正しく使用できる。
3. 得られた情報を的確に把握して歯内疾患の状態を判定し、治療方針を決定できる。
4. ラバーダム防湿、隔壁形成法やバリアーテクニックを適切に実施できる。
5. 歯内治療における除痛法（麻酔法）を確実に実施できる。

III. 象牙質知覚過敏症の理解と対応能力

1. 歯の硬組織疾患としての象牙質知覚過敏症の原因と疼痛発現のメカニズムを説明できる。
2. 象牙質知覚過敏症の適切な治療法を実施できる。
3. 象牙質知覚過敏症の再発防止のために、予防的な対応を指導できる。

IV. 歯髄疾患の理解と対応能力

1. 得られた情報から歯髄疾患の確定診断ができる。
2. 歯髄疾患に対する各種の治療法に精通し、病態の相違に対し適切な治療を確実に実施できる。
 - 1) 歯髄保存療法の理解と対応能力
 - ① 歯髄鎮痛消炎療法ならびに覆髄法（間接覆髄法ならびに直接覆髄法）の適切な治療薬を選択できる。
 - ② 歯髄鎮痛消炎療法ならびに覆髄法（間接覆髄法ならびに直接覆髄法）を確実に実施できる。
 - ③ IPC 法（暫間的間接覆髄法）を確実に実施できる。
 - 2) 歯髄除去療法の理解と対応能力
 - ① 生活歯髄切断法（生活断髄法）の適切な治療薬を選択できる。
 - ② 生活歯髄切断法（生活断髄法）を確実に実施できる。
 - ③ 麻酔抜髄法の適切な機器・器具を選択できる。
 - ④ 麻酔抜髄法を確実に実施できる。

V. 根尖性歯周組織疾患の理解と対応能力

1. 感染根管治療を確実に実施できる
2. 根尖性歯周組織疾患の確定診断ができる。
3. 急性炎症が強い場合の緊急処置を確実に実施できる。
4. 患歯保存の適否について、一口腔として総合的に判断できる。

VI. 根管処置の理解と対応能力

1. 一連の根管処置を確実に実施できる。
2. ニッケルチタン（Ni-Ti）製ロータリーファイルを用いた根管形成を適切に実施できる。

2. 歯相筈治療を確実に実施できる

3. 再根管治療を確実に実施できる。

VII. 根管充填の理解と対応能力

1. 根管充填を確実に実施できる。

VIII. 特殊な歯内疾患への対応能力

1. 根未完成歯の治療の理解と対応能力

- 1) アペキソゲネーシスを確実に実施できる。
- 2) アペキシフィケーションを確実に実施できる。

2. 歯根の病的吸収の理解と対応能力

- 1) 内部吸収を適切に診断できる。
- 2) 内部吸収の確実な処置が行える。
- 3) 外部吸収を適切に診断できる。
- 4) 外部吸収の確実な処置が行える。

3. 外傷歯の診断と処置の理解と対応能力

- 1) 外傷歯の確定診断ができる。
- 2) 歯の破折および転位（嵌入と挺出、脱臼、捻転）の確実な処置が行える。

4. 外科的歯内治療の理解と対応能力

1) 外科的歯内治療を必要に応じて実施、または依頼できる。

5. 手術用顕微鏡（マイクロスコープ）を応用した歯内治療の理解と対応能力

1) 手術用顕微鏡（マイクロスコープ）を応用した歯内治療を必要に応じて実施、または依頼できる。

6. 歯内-歯周疾患の理解と対応能力

- 1) 歯内-歯周疾患の鑑別診断ができる。
- 2) 歯内-歯周疾患の適切な治療が実施できる。

7. 高齢者の歯内治療の理解と対応能力

1) 高齢者の歯内治療を確実に実施できる。

8. 歯内治療における安全対策の理解と対応能力

- 1) 各種の偶発事故に応じた予防法を適切に行える。
- 2) 有病者や妊婦の治療時の全身管理を適切に実施できる。

9. 歯内治療における歯科用コーンビーム CT（CBCT）画像診断の理解と対応能力

1) 歯科用コーンビーム CT（CBCT）の画像診断を必要に応じて実施、または依頼できる。

C. 歯周治療分野

I. 歯科保存治療専門医・認定医としての歯周病学に対する認識

1. 歯周治療に必要な解剖学的、病理学的、生化学的、生理学的、細菌学的、薬理学的知識を熟知し、最新情報に精通している。

2. 歯周治療に使用される各種器具、薬剤に精通するとともに、治療の術式および器具の使用法を熟知している。

3. 一般歯科医からの求めに応じ、歯周病学に関する知識や情報の提供ができる。

4. 紹介された患者に対して適切に対応し、確実に治療できる。

II. 歯周病の治療計画

歯周病と全身疾患の関係を熟知し、検査・診断に基づき歯周基本治療、歯周外科治療、サポータティブペリオドンタルセラピーおよびメンテナンスなどの歯周治療計画を立案することができる。

III. 歯周基本治療

1. プラークコントロール

- 1) 患者に適したセルフケアを実施できる。
- 2) 患者に適したプロフェッショナルケアを実施できる。

2. スケーリング・ルートプレーニング

- 1) スケーリング・ルートプレーニングが実施できる。
- 2) シャープニングを実施できる。
- 3) 超音波スケーラー、エアースケーラーを使用し、安全で適切な処置が実施できる。

3. プラークリテンションファクター

- 1) 安全で適切なプラークリテンションファクターの除去が実践できる。

4. 咬合調整

- 1) 安全で適切な咬合調整が実施できる。

5. 暫間固定

- 1) 安全で適切な暫間固定が実施できる。

6. 抗菌療法

- 1) 安全で適切な歯周病の抗菌療法が実施できる。

IV. 歯周外科治療

1. 歯周外科治療の基本的な術式を選択できる。
2. 歯周外科治療の基本的な術式を実施できる。
3. より専門性が必要となる症例において歯周病専門医と連携できる。

V. サポータティブペリオドンタルセラピー（SPT）とメンテナンス

1. 歯周病の一連の治療後の再評価において、「病状安定」と「治癒」が判断できる。

(3) 診療態度

- ① 医の倫理に配慮できる。
- ② 医療安全に配慮できる。
- ③ 感染予防対策に配慮できる。
- ④ 患者とコミュニケーションできる。
- ⑤ 他職種医療関係者とコミュニケーションできる。

(4) 学術的姿勢

- ① 常に患者から学ぶ姿勢を基本として治療できる。
- ② 科学的思考とエビデンスに基づいて診断できる。
- ③ 科学的思考とエビデンスに基づいて治療できる。
- ④ 生涯学習により自己研鑽できる。
- ⑤ 歯科保存学に関する研究を遂行できる。
- ⑥ 歯科保存学に関する研究成果を学術大会や論文で発表できる。

3) 経験目標

研修において履修すべき症例は、日々の臨床において経験する症例と大きく異なることはない。しかし、専門医として、これらの症例に対し、適切かつ高度な治療法を実施することにより、患者の個々の歯の寿命を存え、口腔内の変化を最小限に抑えることが可能になり、ひいては患者の生涯にわたる健康維持増進につながる。

(1) 経験すべき症例

保存修復分野

- ① 齲蝕症
- ② 歯の損耗 (tooth wear) : 摩耗症、咬耗症、酸蝕症、アブフラクション、くさび状欠損など
- ③ 歯列異常 (歯間離開、捻転歯など)
- ④ 歯の形態異常 (矮小歯など)
- ⑤ 歯冠修復 (歯冠補綴)
- ⑥ 歯の欠損症 (少数歯欠損)
- ⑦ その他 : 接着歯科治療により歯の保存が期待できる疾患 (歯根破折など)

歯内治療分野

- ① 象牙質知覚過敏症
- ② 歯髄疾患
- ③ 根尖性歯周組織炎
- ④ 根未完成歯
- ⑤ 歯根の病的吸収
- ⑥ 外傷歯
- ⑦ 歯内 - 歯周疾患
- ⑧ 再生歯内療法

歯周治療分野

- ① 歯周病

(2) 経験すべき処置・修復 (医療面接・検査を含む) 及び経験症例数

処置・修復

処置・修復

- ① 直接修復
 - ア) コンポジットレジン修復
 - イ) コンポジットレジnbrリッジ
- ② 接着歯冠修復（接着歯冠補綴）
 - ア) レジンコーティング
 - イ) レジンコア（含 ファイバーポスト併用）
 - ウ) 接着ブリッジ
 - エ) メタルフリー
- ③ デジタルデンティストリー
 - ア) 光学印象
 - イ) デジタルワークフロー
 - ウ) CAD/CAM
 - エ) メタルフリー
- ④ その他

処置・歯内

- ① 歯髄鎮痛消炎療法
- ② 覆髄法
- ③ IPC法
- ④ 生活断髄法
- ⑤ 麻酔抜髄法
- ⑥ 失活断髄法
- ⑦ 感染根管治療
- ⑧ アペキソゲネーシス
- ⑨ アペキシフィケーション

処置・歯周

- ① プラークコントロール
- ② スケーリング・ルートプレーニング
- ③ プラークリテンションファクター
- ④ 咬合調整
- ⑤ 暫間固定
- ⑥ 抗菌療法
- ⑦ 歯周外科治療
- ⑧ SPTとメンテナンス

経験症例数

<臨床実績>

認定医：保存修復、歯内治療、歯周治療の中から1症例

専門医：保存修復、歯内治療、歯周治療各分野 3症例：計 9症例

(3) 学術活動

認定医：認定医申請に必要な研修単位および業績は特定非営利活動法人日本歯科保存学会認定医制度施行細則に定める。

専門医：専門医申請に必要な研修単位および業績は特定非営利活動法人日本歯科保存学会専門医制度施行細則に定める。

2. 研修の方法

1) 具体的な研修方法

(1) 共通研修（臨床現場以外での研修）

- ① 医療倫理
- ② 医療安全
- ③ 院内感染対策
- ④ 患者・医療従事者との関係の構築
- ⑤ 医療関連法規など
- ⑥ 地域医療
- ⑦ 隣接医学

(2) 専門研修

① 必修研修（臨床現場以外での研修、自己学習）

ア) 歯科保存治療に必要な基礎・臨床における専門的知識の修得

- a) 学術大会参加、研修会参加（研修期間中は本会学術大会に原則参加すること）
- b) 研修施設における勉強会、症例検討会などの参加
- c) 参考図書などによる自己学習

イ) 研究業績

- a) 細則にある研修単位および業績を満たすこと

② 選択研修（臨床現場での研修）

経験目標を満たすよう、各研修施設の特徴・特色に基づき研修項目を任意

に選択し研修を行う。

3. 研修の評価

1) 形成的評価

- (1) 自己評価（年1回）
- (2) 指導医によるフィードバック（年1回）

2) 総括的評価

到達目標の達成度を総括的に把握するために、研修期間中に指導医は申請医から提出される臨床実績の資料を基に専門的診療能力について評価を行う。必要に応じて指導医の立会のもと実技試験を行い評価する。また、研修修了後、指導医は臨床実績と経験症例報告の全ての資料に基づき口頭試問を行い到達目標の達成度を評価する。

3) 多職種評価

申請医に対する評価として、指導医のほか医療・歯科医療スタッフなど多職種からの評価も考慮することが望ましい。指導医は各施設の医療スタッフなどに回答を無記名方式で依頼し、歯科医師としての適正、他職種とのコミュニケーション、患者との関係の構築などを他職種が評価する。指導医は評価結果に基づきフィードバックを行い申請医に改善を促す。研修期間中における形成的評価とする。